

令和2年3月

各 位

八戸市東京事務所長

八戸レポートの送付について

時下ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

「八戸レポート令和2年3月号」をお送りいたしますので、ご高覧くださいませようをお願いいたします。

国が復興道路として整備する三陸沿岸道路の久慈北道路（久慈北IC～侍浜IC、7.4キロ）が3月1日に開通しました。

仙台市から八戸市までの359キロで整備が進む三陸沿岸道路は、これで271キロの工事が完了し、全体の75%が開通したことになります。

なお、青森県内区間が含まれる階上IC～洋野IC（7キロ）は本年中に開通予定で、その後、来年3月末には全線開通の見込みですので、三陸沿岸を周遊する際には、三陸沿岸道路もご利用ください。

◆「三陸沿岸道路」の詳細はこちらをご覧ください（国土交通省東北地方整備局）

<http://www.thr.mlit.go.jp/road/fukkou/content/road/sanriku/>

◎皆様へのお願い

職業、役職、住所などに変更がある場合は、八戸市東京事務所までお知らせくださいますようお願い申し上げます。

八戸市東京事務所

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-4-2 全国都市会館5階

電話 (03) 3261-8973 / FAX (03) 3239-6723

E-mail: tokyo@city.hachinohe.aomori.jp

八戸 3月号 レポート

令和2年2月の八戸市内での出来事や八戸市に関連する情報をお届けします。

【行政】

記事	概要
(1)	天間林道路2022年開通へ 八戸ー青森が1時間32分に
(2)	長根公園 駐車場料金当面無料に
(3)	2月17日「えんぶりの日」有休呼び掛けは“不発”
(4)	八戸市 新・洪水ハザードマップ公表 全戸配布へ

【産業】

記事	概要
(5)	八戸市、おいらせ町 特産品をベトナムでPR
(6)	ヤフー本社（東京）で八戸圏域物産フェア「サバ缶バー」「陸奥八仙」が人気
(7)	だし専門業者「静岡屋」（八戸市）が手掛けた“減塩ポテチ”発売
(8)	八戸酒造 蔵人4人が新商品を考案
(9)	ホテルグローバルビュー八戸 プレオープン
(10)	ヴァンラーレ八戸×味の海翁堂 コラボせんべい汁販売へ

【地域】

記事	概要
(11)	八戸農協 料理教室で「JA八戸井ぶり」紹介
(12)	造形家 故伊藤二子さんの作品、ブックカバーに
(13)	「あったらいいな」子どもアイデアコンテスト 三浦君（吹上小）最優秀賞
(14)	タレント十日市秀悦さん制作の「南部弁ラップ」人気急上昇
(15)	猟友会八戸支部に“狩りガール” 10年ぶりに女性加入
(16)	蕪嶋神社新社殿竣工引き渡し 3月26日一般公開へ

【文化・スポーツ】

記事	概要
(17)	八戸国体 スピード成年女子2000メートルリレーで青森県が有終の2位
(18)	八戸工業高卓球部 高校選抜卓球大会の全国大会出場へ
(19)	八戸えんぶり閉幕
(20)	中高生サッカー審判続々誕生 2025年国民スポーツ大会へ向け資格取得促進

【行政】

記事	概要
(1)	<p>天間林道路2022年開通へ 八戸ー青森が1時間32分に</p> <p>国直轄で整備している上北自動車道（23.8キロ）3区間のうち、完成時期が未定だった天間林道路（七戸町、8.3キロ）が2022年内に開通する見通しになった。八戸市庁ー青森市役所間の最短所要時間は1時間32分となり、上北自動車道全体の整備前に比べて約31分短縮される。天間林道路の開通によって八戸、青森両市の主要区間が高規格道路や有料道路などの高速性に優れた幹線道で結ばれ、交流人口の拡大をはじめ物流や観光の活性化、医療体制の充実といった波及効果が期待される。</p>
(2)	<p>長根公園 駐車場料金当面無料に</p> <p>八戸市が有料とする方針を示していた長根公園駐車場について、有料化を当面、見送る方向で最終調整している。市は昨年5月に一部有料化する方針を表明したが、市民などから反発や再検討を求める声が続出。有料化を見送るのは、市民の声に加え、YSアリーナ八戸で昨年10月に開催された全日本スピードスケート距離別選手権や、今年1～2月の冬季国体で、駐車場から車が退場する時間が予想よりも短かったことなどが背景にあるとみられる。当面は無料のままで運営するが、必要に応じて対応を検討するとみられる。</p>
(3)	<p>2月17日「えんぶりの日」 有休呼び掛けは“不発”</p> <p>八戸市は、八戸えんぶり初日の2月17日に設定している学校休業日「えんぶりの日」に、仕事を持つ保護者や社会人も休暇を取って、みんなでえんぶりを楽しんでもらおうと「仕事休もつ化計画」を進めている。労働者の年次有給休暇の取得を進める厚生労働省と連携。市教委と市観光課がポスターとチラシを作製し、市内の各事業所、公民館などの公共施設、小中学校、えんぶり組などに配りPRをした。今年は制定後初めての平日だったが、仕事を休んできたとみられる大人はまばらで、実際は休暇の取得がなかなか難しい一面も浮かび上がった。</p>
(4)	<p>八戸市 新・洪水ハザードマップ公表 全戸配布へ</p> <p>八戸市は2月27日、想定される最大規模の降雨時の浸水区域などを示した新たな洪水ハザードマップを公表した。市内をA～Dの4地区に分け、国や青森県が実施したシミュレーション結果を基に、4種類のマップを作成した。千年に1度の発生確率の大雨で市内の川が氾濫し、洪水が発生した場合に想定される浸水の深さを色分けして示している。マップは3月中に市内全戸に配布するほか、市のホームページでも公表する。</p>

【産業】

記事	概要
(5)	<p>八戸市、おいらせ町 特産品をベトナムでPR</p> <p>八戸市などで組織するASEAN（東南アジア諸国連合）向け通年マッチング支援事業の実行委員会は、1月27日から2月6日まで、ベトナムのホーチミン市で青森県産品のPR活動を展開した。2月2日には現地の高島屋で来店客を対象に商品のデモンストレーション販売を実施。八戸市やおいらせ町などの企業が参加し、水産加工品やスイーツ、日本酒をPRした。2月3日以降には現地のバイヤーとの商談や市場視察なども行った。</p>

<p>(6)</p>	<p>ヤフー本社（東京）で八戸圏域物産フェア「サバ缶バー」「陸奥八仙」が人気</p> <p>八戸圏域版DMO（観光地域づくり推進法人）「VISIT（ビジット）はちのへ」は2月5～6日、千代田区にあるヤフー本社で物産フェアを開き、地場製品の魅力をアピールした。社内レストランにブースを構え、イカの珍味や締めさば、地酒、南部せんべいなどを販売した。担当者によると、マルヌシ（八戸市）が製造するサバの缶詰シリーズ「八戸サバ缶バー」、八戸酒造の「陸奥八仙」などが人気を集めていたという。昨年7月に続き2回目の開催。</p>
<p>(7)</p>	<p>だし専門業者「静岡屋」（八戸市）が手掛けた“減塩ポテチ”発売</p> <p>青森県が推進する「だし活」と連携した減塩ポテトチップスが2月17日、東北と関東で発売された。八戸市のだし専門業者「静岡屋」が手掛けただし味で、かつお節など海鮮を使った「海の幸」と、ニンニクやリンゴなど農産物が原料の「山の幸」の2種類。製造は大手菓子メーカーの湖池屋が行った。両商品とも標準的なポテトチップスに比べ、塩分を約30%カットしたという。健康に配慮した青森発の菓子として、幅広い世代からの支持を狙う。価格は150円（税別）。初回は各10万袋の限定販売。</p>
<p>(8)</p>	<p>八戸酒造 蔵人4人が新商品を考案</p> <p>八戸酒造は、製造部の社員らが酒造技能士1級と2級を取得したことを記念した取り組みとして、蔵人4人が考案した日本酒「MixseedSeries（ミクシードシリーズ）」を製造している。第1弾として、製造部の木村賢太さん（27）が実家で収穫した飯米「まっしぐら」を使って製造したかん酒向きの酒を2月21日から八戸市内などで販売している。その後ほかの3人が考案した新商品を3～5月にも3カ月連続で投入する予定で、全国の酒蔵でも珍しい取り組み。それぞれ特徴の異なる酒造りを行い、幅広い消費者層に日本酒をアピールする。</p>
<p>(9)</p>	<p>ホテルグローバルビュー八戸 プレオープン</p> <p>八戸市十三日町のホテルグローバルビュー八戸（旧八戸第1ワシントンホテル）が2月27日、プレオープンした。全226室のうち、3割弱の客室と9階のレストランが稼働しており、客室はゆったりとくつろげるよう、大きめのベッドを配置した。フロントは南部裂織からインスピレーションを受け、「組む・編む」をコンセプトに内装をデザインした。旧第1ホテル時代のれんがの風合いを生かしながら、大理石なども使用し、モダンで高級感のある雰囲気となっている。宿泊者用の大浴場のほか、市民らが利用できるバーも5月のグランドオープンに合わせて新設する計画である。</p>
<p>(10)</p>	<p>ヴァンラーレ八戸×味の海翁堂 コラボせんべい汁販売へ</p> <p>サッカーJ3のヴァンラーレ八戸と、八戸市の食品加工卸販売業「味の海翁堂」は4月から、チームカラーの緑をあしらったパッケージの「ヴァンラーレ八戸オリジナルせんべい汁」を試合会場などで販売する。八戸市を青森県内外へ発信し、チームをPRしようと、2014年からヴァンラーレのオフィシャルスポンサーを務めている同社が協力して開発した。県産小麦の「ネバリゴシ」を使い、もちもちとした食感が特長の煎餅6枚と、ブランド地鶏「青森シャモロック」でだしを取ったスープが3袋付いた3人前のセットになっている。価格は660円（税込み）で、売上金の5%はチームの強化費に充てられる。</p>

【地域】

記事	概要
(11)	<p>八戸農協 料理教室で「JA八戸丼ぶり」紹介</p> <p>八戸農協主催の親子料理教室が2月1日に江陽公民館で開かれた。同農協は、管内の生産物の地産地消を進めようと昨年、食育インストラクターに「JA八戸丼ぶり」のレシピ考案を依頼。この日は市内の親子13組が参加し、調理に挑戦した。ナガイモやゴボウを田子牛で包んだ肉巻きを中心に、リンゴと長ネギをあえたソース、寒締めホウレンソウ、干し菊などを彩りに添えた。参加者は、全ての食材を同農協の管内で生産される農畜産物でそろえた「JA八戸丼ぶり」の作り方を学びながら地元の美味を堪能した。</p>
(12)	<p>造形家 故伊藤二子さんの作品、ブックカバーに</p> <p>八戸市の伊吉書院が、今年創業135周年を迎えたことを記念し、創始者である伊藤吉太郎の孫で、造形家の故伊藤二子さんの作品を表紙にした8種類のブックカバーを製作した。作品に題名を付けなかった伊藤さんらしく、多様な色や“かたち”が混じり合い、手に取った購入者に問い掛けるデザインに仕上がっている。市内の2店と二戸、盛岡両市の各1店の計4店舗で、2月5日から数量限定で配布されている。</p>
(13)	<p>「あったらいいな」子どもアイデアコンテスト 三浦君（吹上小）最優秀賞</p> <p>全国の小学生を対象に、「未来にあったらいいな」と思うアイデアを作品にしてみよう「Honda第17回子どもアイデアコンテスト」（ホンダ主催）で、八戸市立吹上小5年の三浦士（あきら）君（11）が高学年部門の最優秀賞に輝いた。三浦君のアイデアは、自動車内に特殊装置を設け、微生物を混ぜた排せつ物などの汚泥を燃焼させて電気を取り出し、動力とすると同時に、燃焼の際に発生するメタンガスについて、ニッケル触媒などを通して水素だけを取り出し、燃料電池に蓄えるというもの。バイオマス発電と水素発電を一体化させる画期的アイデアで、審査員は「誰も思い付かない発想で素晴らしい」と絶賛した。</p>
(14)	<p>タレント十日市秀悦さん制作の「南部弁ラップ」人気急上昇</p> <p>八戸市出身のタレント十日市秀悦さんが、ヒップホップのリズムに乗せた「カッチャラップ」を発表した。日常生活や仕事を通じて「いつか南部弁は消えてしまうかもしれない」との危惧から、楽曲制作に着手。カッチャのぼやきを盛り込んだユニークな楽曲になっている。ミュージックビデオ（MV）は陸奥湊駅前市場や館鼻岸壁などで撮影し、市民にはおなじみの光景が広がっている。MV制作を機に、ユーチューブのチャンネルも開設。再生回数の上昇を受けてCDも自主制作し、1月に販売を開始した。吉幾三さんの津軽弁ラップ「TSUGARU」が大きな話題となっているだけに、南部弁の広まりに期待が高まる。</p>
(15)	<p>猟友会八戸支部に“狩りガール” 10年ぶりに女性加入</p> <p>野生動物の捕獲や適正管理を担う青森県猟友会八戸支部に昨年、女性4人が加入し、“狩りガール”として奮闘している。加入したのは20～60代の4人で、職業は会社員や公務員、飲食店経営などさまざま。狩猟を始めるには銃器やわな、ウェアなど少なくとも30万円はかかるとされるが、近年の野生鳥獣肉（ジビエ）ブームやアウトドア人気の高まりを背景に、狩りに対する女性の関心が高まりつつある。同支部に女性が入ったのは約10年ぶり。</p>

(16)	<p>蕪嶋神社新社殿竣工引き渡し 3月26日一般公開へ</p> <p>2015年11月の火災で社殿を焼失した蕪嶋神社の新社殿が竣工し、2月27日に建設業者から神社側へ引き渡された。新社殿は2階建て。延べ床面積は旧社殿の約2倍となる487平方メートル。ケヤキや青森ヒバ、南部アカマツ、秋田杉といった良質な木材を豊富に使用している。4年3カ月余りの時を経て、蕪島の頂に“地域のシンボル”が復活を遂げた。3月26日の例大祭に合わせて一般公開される予定。</p>
------	--

【文化・スポーツ】

記事	概要
(17)	<p>八戸国体 スピード成年女子2000メートルリレーで青森県が有終の2位</p> <p>八戸市など青森県南地方3市町5会場で行われた第75回国体冬季大会スケート・アイスホッケー競技会「氷都新時代！八戸国体」は2月2日に最終日を迎え、5日間にわたる氷上の熱戦に幕を下ろした。青森県勢は、スピード2000メートルリレーで成年女子が今大会県勢最高となる2位に輝くなど、9種目で入賞した。競技終了後はYSアリーナ八戸で表彰式を行い、同地方で9年ぶりだった冬季スポーツの祭典を締めくくった。</p>
(18)	<p>八戸工業高卓球部 高校選抜卓球大会の全国大会出場へ</p> <p>東北各県代表の18校が出場した第43回東北高校選抜卓球大会（1月31～2月2日）の男子学校対抗種目で、青森県立八戸工業高卓球部が6位入賞を果たし、3月25日に千葉市で開幕する全国大会への初出場を決めた。全国大会は地方大会を勝ち抜いた56校で争われる。同種目での東北代表入りは、八戸市内の高校で初の快挙となった。</p>
(19)	<p>八戸えんぶり閉幕</p> <p>約800年の歴史を持つ八戸地方の伝統行事「八戸えんぶり」が2月20日、4日間の全日程を終えた。今年は全日程が平日だったことや、悪天候に見舞われたことにより、期間中の入り込み数は昨年を5万6千人下回る25万人となった。最終日に市庁前市民広場で開かれた一般公開では、太夫や子どもたちが勇壮な摺りや、愛らしい祝福芸を次々と繰り広げた。北国に春を呼び込もうとする堂々とした姿に、市民らは名残を惜しみながら温かい拍手を送った。</p>
(20)	<p>中高生サッカー審判続々誕生 2025年国民スポーツ大会へ向け資格取得促進</p> <p>2025年に青森県で開催される国民スポーツ大会に向け、県サッカー協会は、中高生をターゲットに審判の資格取得を促す取り組みを強化している。2級審判は県内には61人が登録しているが、大半が40代以上で、体力面などから若返りが必要だという。このため同協会では、2014年からユース世代を対象にした審判の講習会を開くなど、若手の育成に力を入れており、本年度は、県立百石高3年の大澤隼人さん（18）が県内の高校生で初めて2級に合格。八戸市立湊中3年の関川伽音さん（15）も県内の女子中学生として初の3級を取得した。2025年の大会では、副審を務めることができる県内の2級審判員の確保が急務となっている。</p>